

第1回近畿周産期精神保健研究会 会長挨拶

子どもと家族の幸せを支えるためには、周産期からの医学的アプローチに加え、精神保健的アプローチ、すなわち、医師、看護師、助産師のみならず、臨床心理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、保健師、理学療法士あるいは保育士など周産期医療に関わる全ての職種の人々が参加して、胎児・赤ちゃんと家族のこころの健康を支える為の研究と実践が不可欠であります。その目的で平成21年に「周産期精神保健研究会」が設立され、年2回地方セミナーという形で研究会が開催されてきましたが、日本中の胎児・赤ちゃんと家族にこの研究会の恩恵を受けてもらうためには全国規模の研究会にしてより多くの人たちに参加していただくことが重要と考え、平成25年11月に第1回日本周産期精神保健研究会を開催いたしました。知名度の低い筈の第1回目の研究会にも拘わらず600人に達する多職種の人たちの参加を得て、会場は熱い熱気に包まれたことは記憶に新しいところです。周産期医療に精神保健的アプローチが必要だと感じていた人たちが如何に多いかということの証左だと思います。当初、第2回以降の定期的な研究会の開催は予定されておりましたが、第2回以降の開催を希望する声が多く聞かれたことより、本年11月14日・15日にさいたま市で第2回日本周産期精神保健研究会が開催されることになりました。しかし、更に多くの多職種の医療従事者に周産期精神保健の研究と実践に参加していただくためには身近な会場で毎年研究会を開催する必要があると考え、近畿周産期精神保健研究会を設立することとし、第1回研究会を2016年2月21日に大阪市内で開催させていただくことに致しました。

窪田昭男